

第3回大学通信教育等に関する情報通信技術の活用に関する情報通信技術の活用に関する調査研究協力者会議
平成24年10月11日（木）

日本大学通信教育部のメディア授業の概要

1 メディア授業（e-learning）の概要

e-learningとは、情報技術を使用して行う遠隔学習をいう。インターネットを利用し、パーソナルコンピュータや携帯端末を用いて同期もしくは非同期双方向で授業を行い、面接授業と同等の効果を挙げるものをいう。

e-learning教材は、当該科目の印刷教材に即した内容とし、文字や図表、映像や音声を含めた静止画や動画を効果的に組み合わせ作成し、使用する資料については、著作権の有無を確認し、適正に処理しなければならない。

また、開講単位については、科目の所定単位が2単位の場合、1単位分として第1章から第12章または第15章で構成し、所定単位が4単位の場合、2単位分として、第1章から第12章または第15章で構成する。なお、授業時間の考え方については、1章あたり90分から120分程度の視聴学習を目安としている。

システム管理については、管理者の氏名及び所在を明確にし、管理者は、教材の配信、学習履歴や成績の管理、学習機器操作への対応、不特定多数による不正なアクセスの防止、学生による教材の不正利用の防止に責任を持たなければならない。

e-learningによる学習には双方向性が必要であるため、ディスカッションボードを使用して教員と学生または学生同士の対話が可能な環境を整備しなければならない。

また、学習効果を測定するため、科目別の学習到達目標を設定し、学生自身による自己点検、教員が学生に課する一定項目毎の理解度チェックを行わなければならない。試験については、レポート試験とし、成績評価に関しては、ディスカッションへの参加の有無、理解度チェックを用いた理解度、レポート試験の成績を総合的に評価する。

通学制の大学では、卒業に必要な124単位のうち60単位まで、通信制の大学では、卒業に必要な単位の総てを、インターネットを利用して取得することが可能である。

2 メディア授業の推移

平成16年度に11科目の開講でスタートしたメディア授業も、現在では36科目（延べ72講座）を開講し、年間受講者数も延べ約4,900名となっている。

■ メディア授業の開講科目数と受講者数の推移

年度	平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	開講期	後期(MA)	前期	後期	前期	後期												
講座数	11		21	21	27	27	28	28	31	31	32	32	33	33	34	34	36	36
受講者総数(開講期ごと)	403	1,009	945	1,223	1,655	1,797	1,869	2,146	2,310	2,322	2,415	2,415	2,379	2,301	2,422	2,318	2,550	
受講者総数(年間)	403		1,954		2,878		3,666		4,456		4,737		4,794		4,723		4,868	

3 メディア授業の現状 (平成24年10月1日現在)

① 開講科目数

現在、以下の36科目を開講している。

■ メディア授業開講科目一覧

総合教育科目	外国語科目	専門教育科目	教職専門科目		
総合科目 「インターネット論術」	英語Ⅰ MA・MB	法学 憲法 MA・MB 民法Ⅰ MA・MB	現代教職論 M		
	英語Ⅱ MA・MB		民法Ⅱ MA・MB	教育の思想／教育原論 M	
総合科目 「日本大学を学ぶ」※自学史	英語Ⅲ MA・MB	国文学 国文学講義Ⅴ(近代) MA・MB 国文学演習 MA	教育の方法・技術論 M		
歴史学 MA・MB	英語Ⅳ MA・MB		イギリス文学史Ⅰ MA・MB	教育制度論 M	
法学 MA・MB		英文学 英語史 MA・MB 英文法 MA・MB 英語音声学 MA・MB 英米文学概説 MA・MB	特別活動の研究／特別活動論 M		
政治学 MA・MB				哲学演習 MA・MB	
経済学 MA・MB				東洋史概説 MA・MB	
心理学 MA・MB				日本史演習 MA	
		哲学 経済学概論 MA・MB 国際経済論 MA・MB 情報概論 MA・MB		商学総論 MA・MB	
				経営学 MA・MB	
		商学 簿記論Ⅰ MA・MB 貿易論 MA・MB		簿記論Ⅰ MA・MB	
7科目		4科目		20科目	5科目

② メディア授業による修得単位の位置づけ

(1) 開講単位数：一部の科目（教職専門科目）を除き、1講座につき所定単位の半分の単位で開講している。

(2) スクーリング単位との関係

メディア授業で修得した単位は、卒業に必要なスクーリング単位の一部として算入することができる。

■ 日本大学通信教育部における卒業に必要なスクーリング単位

入学種別	卒業に必要なスクーリング単位	左のうち、必ず面接授業で修得しなければならない単位数	スクーリング単位に算入できるメディア授業による修得単位数の上限
1 学 年 入 学	30単位以上	12単位	最大18単位まで算入可能
2 学 年 編 入 学	22単位以上	8単位	最大14単位まで算入可能
3 学 年 編 入 学	15単位以上	6単位	最大9単位まで算入可能

※上記のように、本学においては、メディア授業のみで「卒業に必要なスクーリング単位」を充足することは認めていない。

4 メディア授業の特徴

- ① 受講申込みから最終試験まで、すべてインターネット上で行なえる。

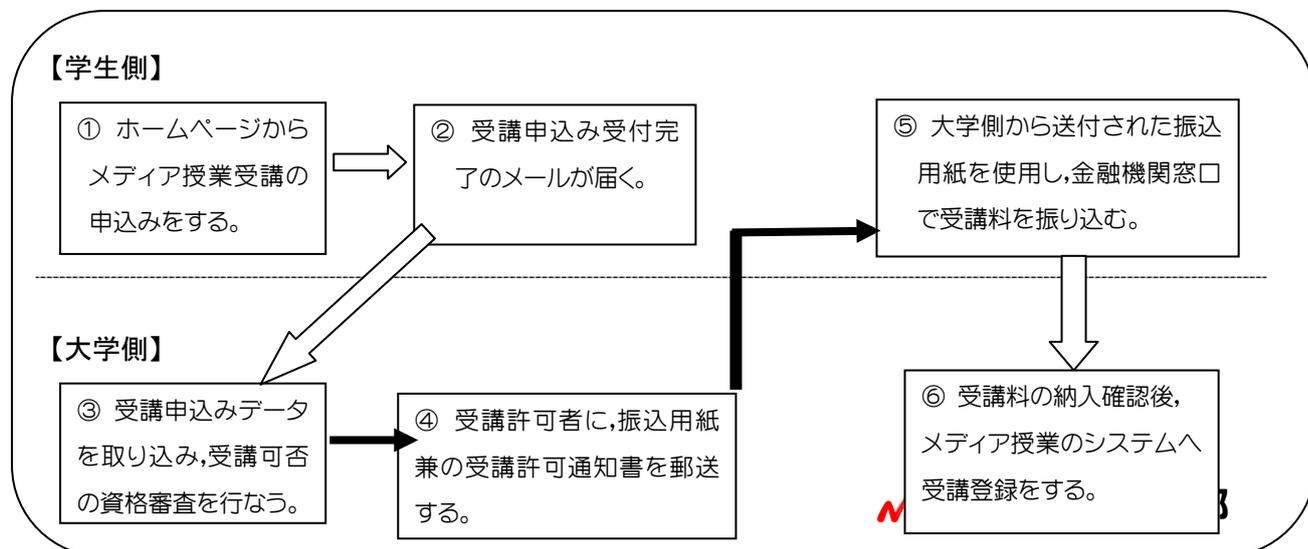
本学のメディア授業は、授業の視聴はもちろんのこと、受講の申込みから課題レポートの提出、質疑応答及び最終試験に至るまで、すべてインターネット上で行なえるのが特徴である。なお、学生の申込み及び受講にあたっては、すべて本学ホームページ上の「在学生専用サポート」を介して行なわれる。

■ 日本大学通信教育部ホームページ

The screenshot shows the homepage of the Nihon University Distance Education Department. A callout box points to the '在学生専用サポート' (Student Support) menu item, stating: 「在学生専用サポート」ここでは、メディア授業の受講以外にも、各種申込みや単位修得状況の確認など、様々なサービスを提供している。

5 メディア授業受講の流れ

- ① 受講申込み～受講許可まで



② 開講後の受講の流れ

各科目の講座ごとで多少の違いはあるが、おおむね以下のとおりである。

(1) 「授業計画」及び「シラバス」の確認	
第1章	(2) 導入～授業コンテンツ
	(3) 自己点検
第2章	導入～授業コンテンツ
	自己点検
第3章	導入～授業コンテンツ
	自己点検
	(4) 理解度チェック
↓	
第15章	導入～授業コンテンツ
	自己点検
	理解度チェック
(5) 最終試験	
(6) 受講後アンケート	

(1) 「授業計画」及び「シラバス」の確認

学生は、各章の内容や課題レポートの提出期限等を確認し、今後の学習計画を立てる。

(2) 「導入～授業コンテンツ」

実際の授業画面。講義を音声と動画で再生。授業の資料やレジюмеなどの文字情報も取得可能。

(3) 「自己点検」

各章の終わりに置かれ、その章の内容の理解度を自分で確認できる。選択式の問題で、自己採点及びくり返しの解答が可能。

(4) 「理解度チェック」

おおむね3章に1回の割合で置かれる。出題形式は、選択式とレポート提出形式があり、いずれも解答期限が設定されている。期限経過後は解答不可となる（自己採点は不可）。

(5) 「最終試験」

レポート提出形式。理解度チェック同様、提出期限が設定されており、期限経過後の提出は不可。

(6) 「受講後アンケート」

授業運営や内容の満足度等を問うアンケート。
(※成績評価の対象外のため、回答は必須ではない。)

■ メディア授業の授業画面イメージ

5 学生との双方向コミュニケーション

本学のメディア授業のもう一つの特徴は、「ディスカッションボード」を利用した、教員と学生間での双方向コミュニケーションが可能となっている点である。

ディスカッションボードは、電子掲示板（BBS）の形式を採用しており、具体例としては以下のような形で利用されている。

① 「質疑応答」（学生⇒教員）

学生が、授業内容についての疑問点や質問事項を書き込み、それに教員が返信コメントを書き込む形で回答する。

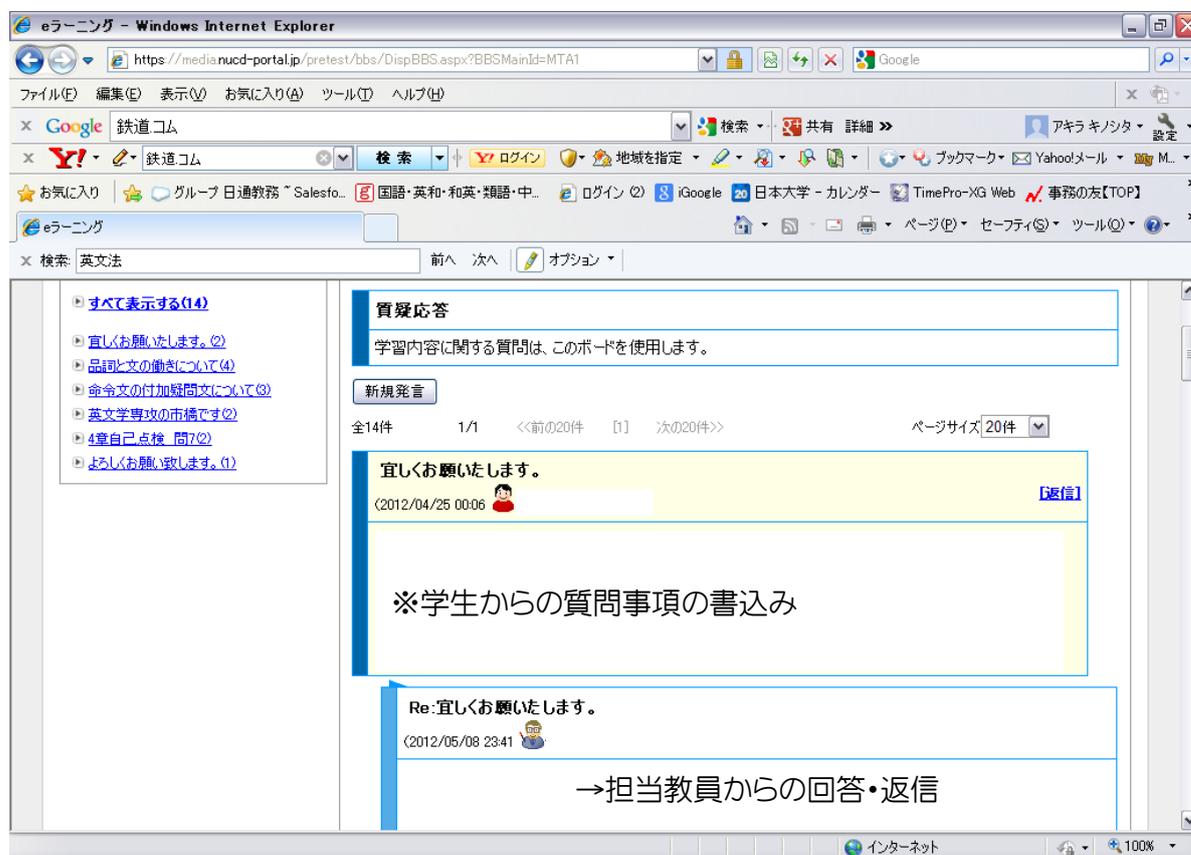
② 教員からの課題や問題提起（教員⇒学生）

授業運営の中で、教員から一定の小課題や問題が提起され、それに対して学生が考えや解答をまとめ、ボードに書き込む形で回答する。

③ ディスカッション形式の授業（学生⇄学生⇄教員）

演習科目における授業形式。受講中の学生から予め発表者・司会者等を決め、ボード上に書き込む形で発表された内容について、発表者以外の学生が意見等をコメントで書き加えていく形で討論を展開していく。

■ ディスカッションボードの画面イメージ

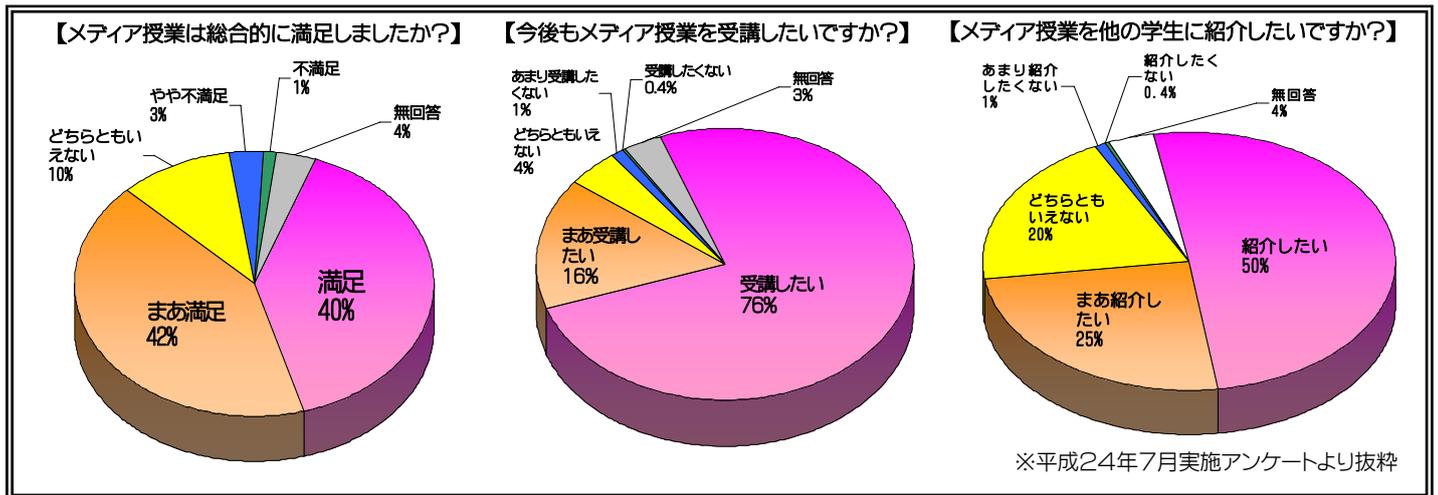


なお、ディスカッションボードは、同講座を受講している学生全員が閲覧可能である。

これにより、質疑応答の情報を受講中の学生間で共有することが可能となり、また複数の学生間によるディスカッション形式の授業も可能となっている。

また、ディスカッションボードに新たな質問事項が書き込まれると、同時に担当教員宛にメールで通知する仕組みとなっている。

6 メディア授業のアンケートデータ



7 メディア授業の問題点と今後の課題

① 本人認証の問題

現在、メディア授業の受講にあたっては、学生に発給するIDとパスワードを使用してログインする形で本人確認を行なっているが、完全な本人認証方法については今後も検討の余地がある。

② 新規開講科目の問題

現在36科目まで開発が進んでいるが、現在のメディア授業のコンテンツ方式では、作成に要する時間とコストの問題もあり、年間に大幅な科目数の増設を見込めない。

新規開講科目のさらなる増設にあたって、コンテンツの内容も含め、開発コストの再検討も今後の課題と言える。

以上